



はんらん原^{げん}は、どのようにしてできるの

洪水^{こうずい}で堤防^{ていぼう}がこわれる

ふつう、山^{やま}には森林^{しんりん}が多いので、山^{やま}に降^ふった雨^{あめ}は、山^{やま}のしゃ面^{めん}を流^{なが}れながら地面^{じめん}にしみこみます。また、木^きの根^ねに吸^すわれたり、土^{つち}のすき間^まにたくわえられたり、さらに深^{ふか}くしみこんで、地下水^{ちかすい}になったりします。

しかし、山^{やま}に木^きが少^{すく}なかつたり、山^{やま}の地^じばん^わが悪^{わる}かつたり、雨^{あめ}の量^{りょう}が多^{おお}すぎたりすると雨水^{あまみず}はすぐ^かに、川^{かわ}に流^{なが}れこんでしまいます。

川^{かわ}の上流^{じょうりゅう}では、山^{やま}のしゃ面^{めん}がくずれて、岩^{いわ}のかけらや土砂^{どしゃ}などが混^まざった、どろ水^{みず}が流^{なが}れこみ、水^{みず}が勢^{いきお}いよく流^{なが}れます。

川^{かわ}の中流^{ちゅうりゅう}や下流^{かりゅう}では、た^みくさ^ずんのどろ水^{みず}や流木^{りゅうぼく}などが、激^{はげ}しい勢^{いきお}いで流^{なが}れ、川^{かわ}の堤防^{ていぼう}をこわし、川^{かわ}がはんらんして、洪水^{こうずい}になることがあります。

洪水^{こうずい}で運^{はこ}ばれた土砂^{どしゃ}や、小石^{こいし}が積^つもってできる

はんらん原^{げん}は、川^{かわ}の中流^{ちゅうりゅう}や、下流^{かりゅう}の地^ち域^{いき}で見^みられる地^ち形^{けい}です。洪水^{こうずい}によつて川^{かわ}がはんらんし、土砂^{どしゃ}や小^{ちい}さな石^{いし}が積^つもってできた、低^{ひく}い土地^{とち}のことです。

洪水^{こうずい}によつて運^{はこ}ばれてきた土砂^{どしゃ}などが、川^{かわ}の両岸^{りょうぎし}近^{ちか}くに自然^{しぜん}に積^つもってできた、高^{たか}さが1～3メートルの「自然堤防^{しぜんていぼう}」が、つらなっている所^{ところ}があります。

自然堤防^{しぜんていぼう}は、川^{かわ}すじが変^かわつても残^{のこ}るものなので、後^{あと}で、その川^{かわ}の歴史^{れきし}を知る手^しがかりになります。(監修・国司 真)

